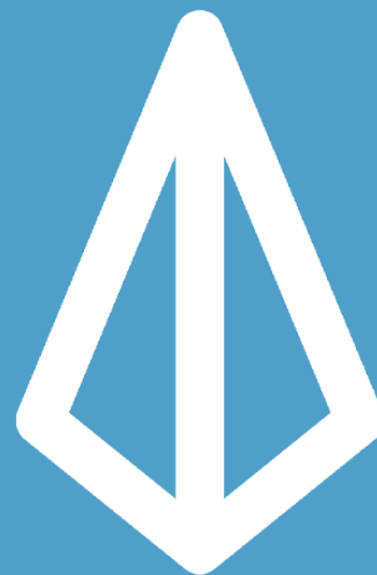


盛岡市 御中

盛岡バスセンター周辺地区公民
連携まちづくり勉強会に係る
社会実験企画・運営業務委託

業務実施報告書
【概要版】

2025年3月5日



「なかのはし1-1ひろば」は、「盛岡バスセンター周辺地区都市再生整備計画」の一環として設置・運営



盛岡バスセンター・monaka・肴町商店街等との連携により、エリアを訪れる人を増やし、回遊性および滞留性を高め、エリアの消費活動を促進させ地域経済の活性化に繋げることを目指す。

【地域課題】「子どもの居場所」「グリーンの設置(緑化)」「コミュニティの希薄化」



まちなかの低・未利用地（青空駐車場）を
広場や交流スペースに転用



広場にて様々なイベントを実験的に実施



2つの観点から、効果を検証

- ①賑わい再生に向けた効果的・持続的な仕組み
- ②中心市街地の居住環境改善



▲なかのはし1-1ひろば設置前
(いわぎんリース駐車場)



▲なかのはし1-1ひろば設置後



- ①日常的な広場としての使用
- ②公共性を保持しつつ、地域経済の活性化を図るためのイベントに使用

広場名称	・ ・ ・ なかのはし1 - 1ひろば (通称：いちわん)
運営期間	・ ・ ・ 令和6年7月27日～令和6年10月31日
面 積	・ ・ ・ 約 897.16m ²
設 備	・ ・ ・ 人口芝生広場、テント、テーブル、ベンチ、掲示用スタンド
利用形態	・ ・ ・ 一般利用・占有利用 (無料)
利用者数	・ ・ ・ 延べ利用人数：約 12,469人 ※イベント利用者のみ 約 4,200人／月

外 観



■ひろば利用の様子

オープニングセレモニー いちわん星空観察会 運動能力の上がる
まちなか広場



...

岩手クラフトビールフェス
IN MORIOKA 2024



もりおかかわとみどりの
ほしぞら映画祭



社会実証事業終了



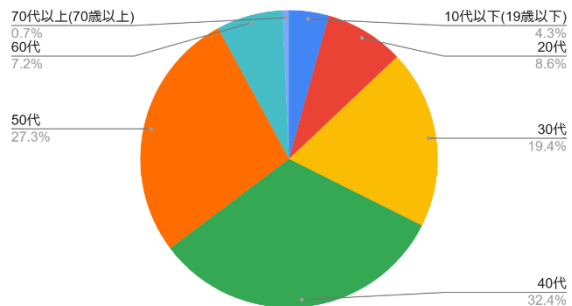
7月27日

上記のほか各種イベントを実施(全30件)

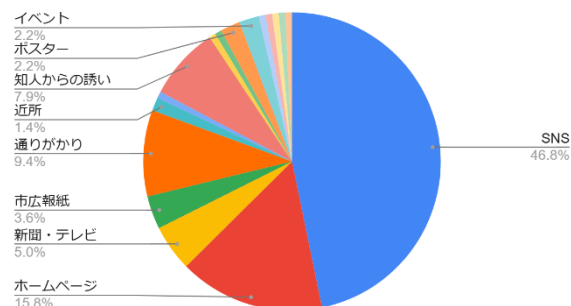
10月31日

◆いちわん利用者向けアンケート集計結果 【回答者数：139名】

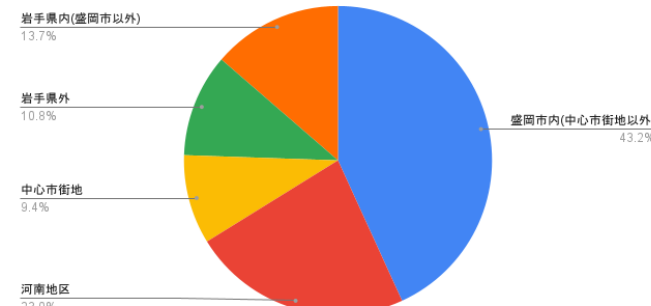
年代



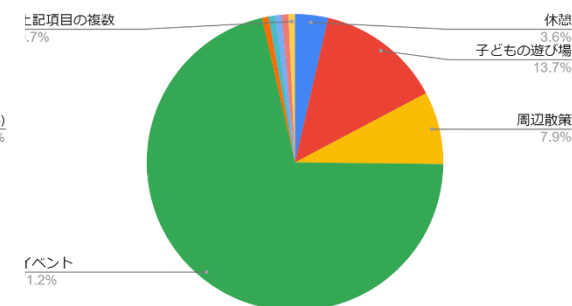
「なかのほし1-1ひろば」を知った経緯



どこから来ましたか



「なかのほし1-1ひろば」に来た目的



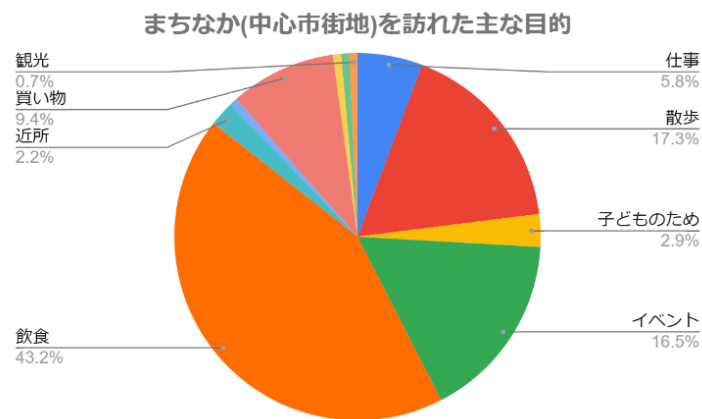
30代～50代が
約8割を占める

認知手段の約半数が
「SNS」と回答

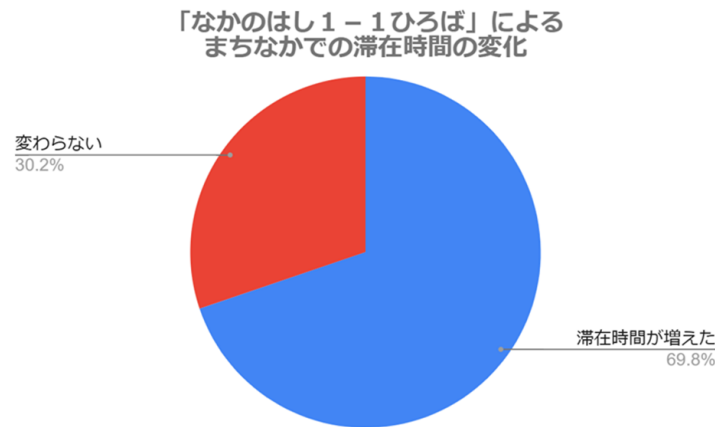
盛岡市在住の利用者が大半。
イベントや観光のために
県外から来る人も。

イベント目的の利用者が
多数。

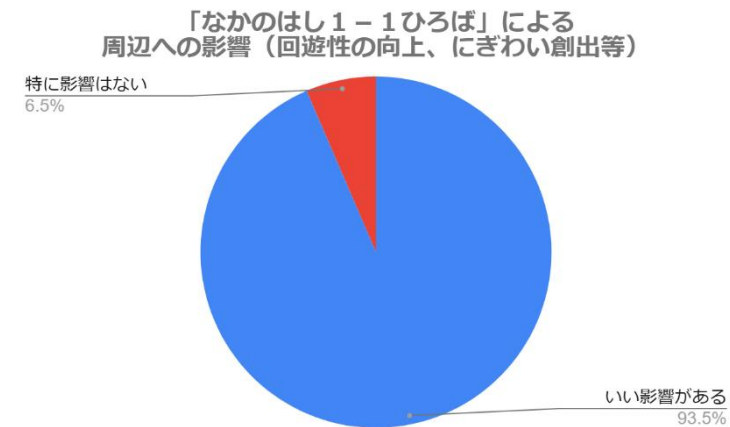
■ 効果検証①(利用者からの評価)



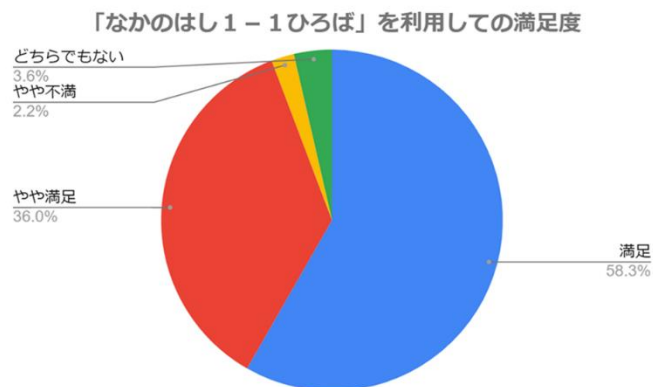
〈まちなかの訪問目的について〉
「飲食・イベント」目的の
回答が約6割を占めた



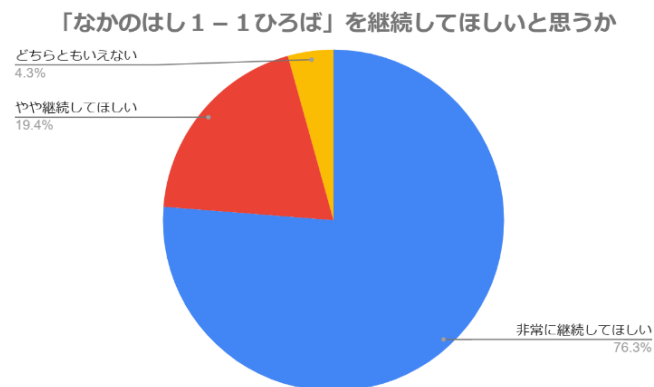
〈滞在時間の変化について〉
約7割の利用者がまちなかの
滞在時間が増加したと回答



〈周辺への影響について〉
9割以上の利用者が
いい影響があると回答



〈利用満足度について〉
9割以上の利用者が満足と回答



〈継続希望について〉
9割以上の利用者が
継続を希望する回答

利用者からの声

- ・ 長く愛される場所になってほしい
- ・ 川を見ながらゆっくりできた
- ・ 子どもの遊び場ができてありがたい
- ・ いろんな種類のイベントが開催されて楽しい

▶ 周辺事業者へのヒアリング結果

■ 結果

- ✓ 過ごしやすい気候になるにつれて、子供たちの利用が増え保育園から高校生までもがマナーを守って使用していた。イベントによっては地域が賑わい雰囲気も良くなった。
- ✓ 日常的に遊ぶ場所が昔に比べて少ないため、今の子どもたちのためにも良いと思うし、いろいろと新しいことにチャレンジ、賑わいをつくってくれたことに感謝したい。
- ✓ イベントは、様々な観光客も訪れたことで、賑わいがあってよかった。周辺事業者との連携も歓迎する。
- ✓ イベントや賑わい創出によりホテル宿泊利用者も増え、商店街と連携した地域密着イベントも素晴らしい。
- ✓ 子供たちの居場所が増え、周囲からもオープンなスペースであり、安心である。周囲の小学校との交流も望ましい。

▶ 福井工業大学による人流分析

■ 結果

- ✓ 平日、イベント実施時に人流が増えていることが確認された。
- ✓ 特に20代など若い層の流入が多くみられた。
- ✓ 前面道路の滞在者は1年前から約1.2倍に増加した。
- ✓ 地域別では、肴町界隈からの来訪が多く、他市や他県など
- ✓ 幅広い地域からの来訪効果もあった。

▶ 岩手県立大学による現地調査

■ 結果

- ✓ 全体として高い評価が得られた。
- ✓ 植栽フェンスで道路と区切られた空間としての安心感、場所への入りやすい寛容性、中津川のほとりで自然があることへの安らぎ感が評価につながっている。
- ✓ 誰かに行ってみたいと思う場所としての評価が高い。

今回の社会実験は設置期間が短期間であったが、利用者アンケート等から改善すべき点が明らかとなったことから、これらを課題として改めて社会実験を実施し、更なる効果検証を行う必要があると考えられる。

【ひろば施設に関する課題（ハード）】

- ・トイレの設置
- ・照明の設置
- ・遊具の設置
- ・日陰を作る屋根やテント等の増設
- ・手洗い場の設置
- ・自動販売機の設置

【ひろば運営に関する課題（ソフト）】

- ・安定的な収支バランスの確保
- ・運営協力者の継続的な確保
- ・イベントや通行規制等に関する事前の情報発信

▼その他利用者からの要望

イベント時の
テーブル・椅子の増設

近隣駐車場の
案内

ひろばでのイベントの
様子がすぐに閲覧できる
プラットフォームの作成

樹木植栽

結論1：賑わい創出の効果的・持続的な仕組みとしての効果

- ✓ ひろばの人流について、滞在者が1年前から1.2倍に増加した
- ✓ 飲食に関連するイベントや子ども向けのイベントの集客数が特に多かったことから、当エリアの賑わいづくりに効果的であった
- ✓ 地域別では、肴町界隈からの来訪が多く、他市や他県など幅広い地域からの来訪効果もあった
- ✓ 周辺ホテル利用者の増加にもつながり、観光客の周辺市街地観光におけるハブ機能も果たす結果につながった

結論2：中心市街地の居住環境の改善に効果

- ✓ 周辺事業者から、ひろば設置により子どもの利用が増えたとの声が多数。保育園のお散歩コースに組み込まれるなど、地域課題であった「子どもの居場所づくり」の解決に貢献する結果となった
- ✓ ひろばの利用者アンケートにおける「利用満足度」「周辺への影響」「ひろばの継続希望」について、高い評価があった
- ✓ 周辺事業者と連携してイベントを行うことで、地域のコミュニティの深化につながった。今後も地域連携・地域密着型のイベント企画が望まれる



なかのはし1-1ひろばを終了することになったとき、市民の方々から惜しむ声が上がりました。それだけ「いちわん」が、まちなかに必要とされる「交流の場」「憩いの空間」「子どもたちの遊び場」として親しまれたのだと思います。

中心市街地において、ヒト・モノ・コトが集うハブとなるような「まちなかの小空間」が求められていますが、これらは一空間では成立せず、周辺地域で生活する事業者や住民の方からの協力があつてこそ、より一層河南エリアの魅力が伝わり、地域全体の活性化につながることを再認識する結果になったと感じています。

今後も地域住民から定期的にご意見をいただきながら、「住みよいまちなかの憩いの場づくり」を行っていくことが重要と考えます。

